

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

滋賀県 総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	30	対象	I 訓 ガ	救 臨 が 地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,420,948	90,746	非該当	7：1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
535	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	535
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
535	-	535

**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

## I 地域において担っている役割

がんをはじめとした専門分野において、手術、化学療法、放射線治療のほか、リハビリテーション、再建医療、緩和ケアも含めた多角的総合的な医療、ケアを提供するなど、県内全域を対象とした、高度な医療の提供を担っている。  
また、脳・心臓血管疾患を中心に24時間体制で救急患者を受け入れるなど、救急医療の提供を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 入院、外来ともに診療単価が上昇したことにより、平成30年度に比べて増収となったものの、給与費と材料費が増加したことで、経常収支比率は減少した。
- 平成30年度に比べ、延入院患者数と病床利用率は低下し、新入院患者数はほぼ同水準となった。
- 前年度に引き続き、計画的に医療職を採用増しているため、職員給与費対業収比率が増加している。
- 高額な抗がん剤治療にも幅広く対応するため、材料費対業収比率が増加しており、全国平均を超えている。

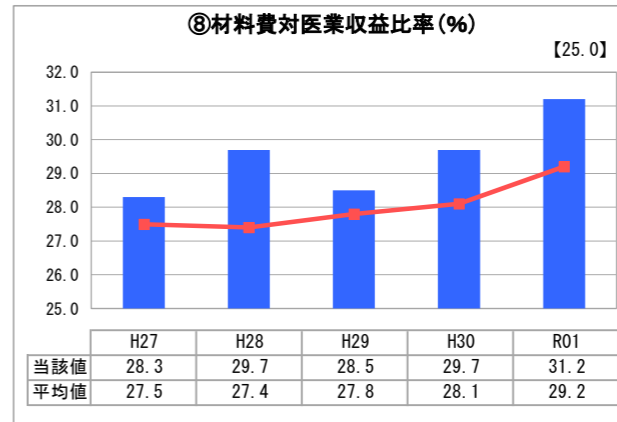
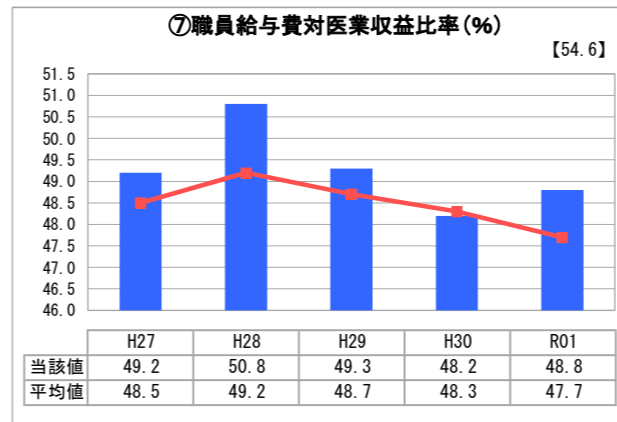
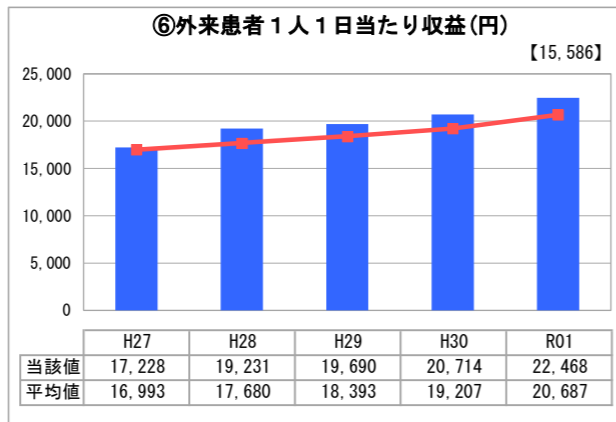
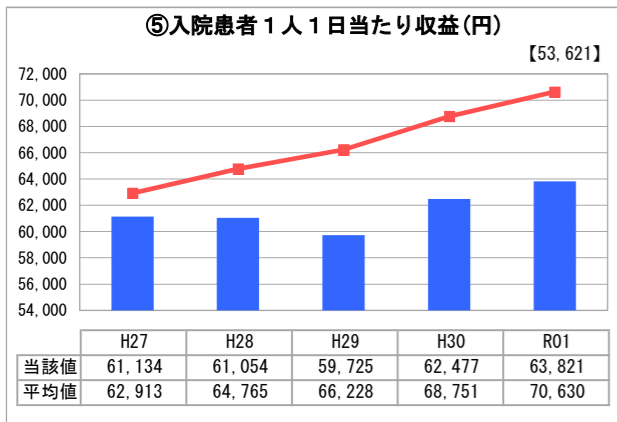
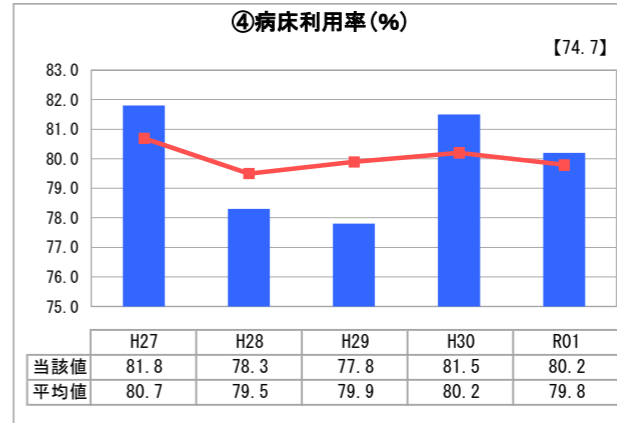
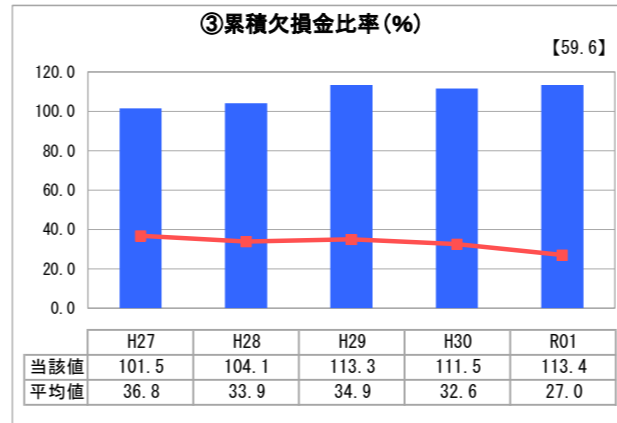
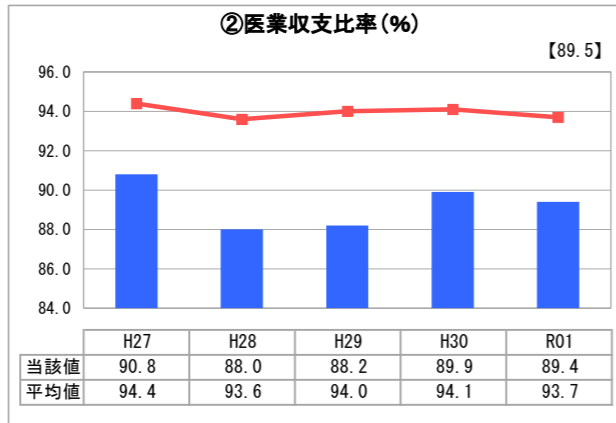
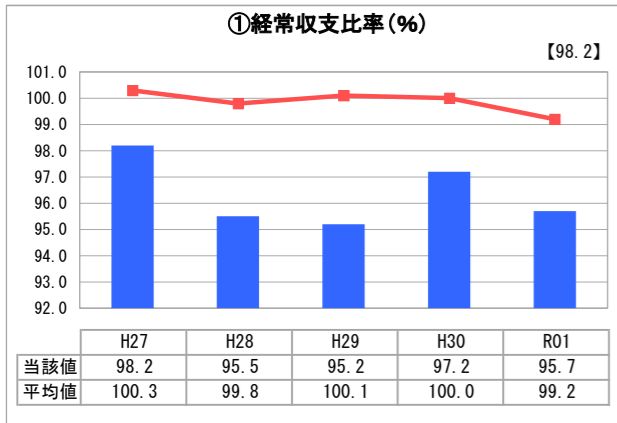
### 2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産について、平成28年度の新病棟建設をはじめ、施設・設備の更新を進めてきたが、平成30年度以降は老朽化が進んでおり、有形固定資産減価償却率は増加している。
- 器械備品については、全国平均とほぼ同水準となっている。医療技術が高度化する中で、引き続き、安全で質の高い医療を提供していくため、医療機器の整備と計画的な更新を進める必要がある。
- 高度な医療の提供に向けた建物、医療機器等の整備を進めていることにより、1床当たり有形固定資産の保有額は全国平均よりも高い傾向が見られる。

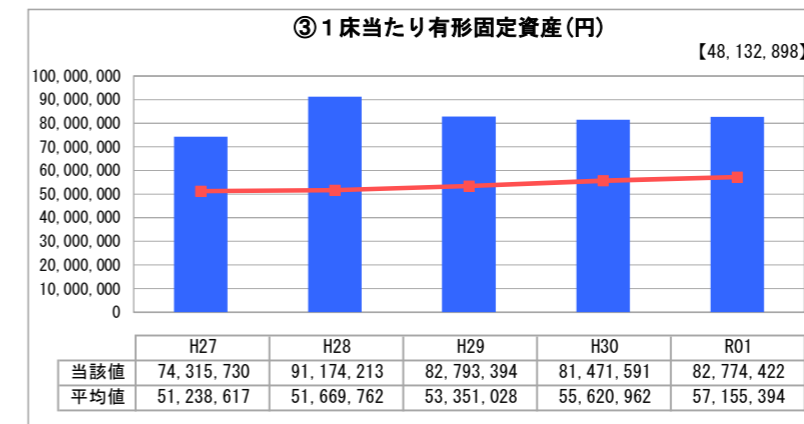
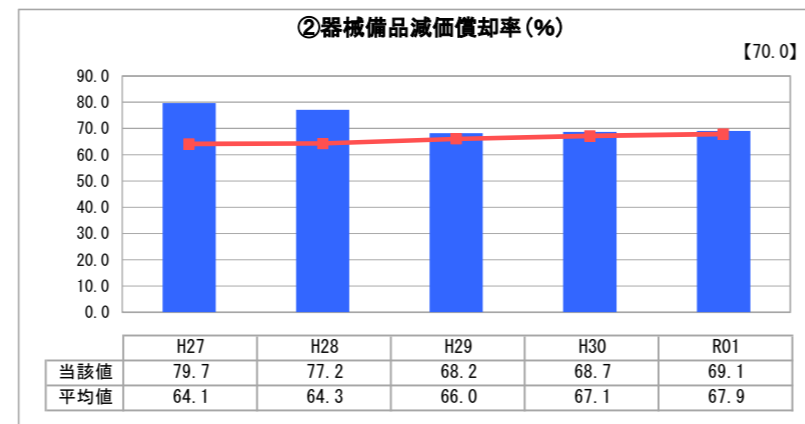
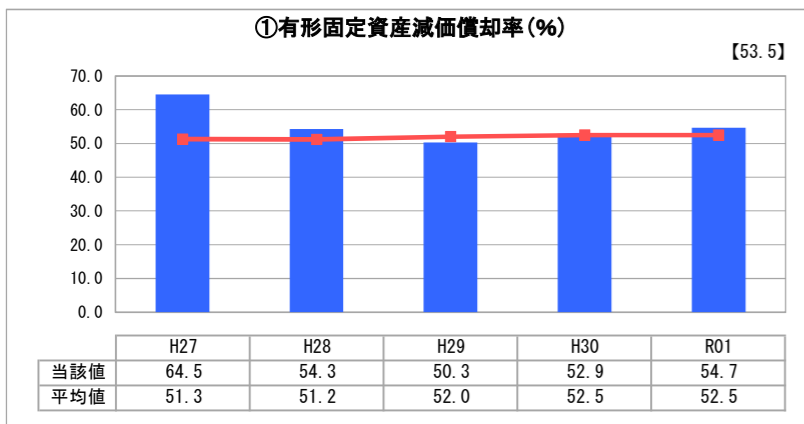
### 全体総括

当院では、がん、血管病をはじめ、加齢に伴い複合的に生じる疾患など、困難な症例に対応できるよう、高い専門性を有する人材を確保するとともに、高度な設備、機器を整備してきたところ。  
令和元年度は、診療単価の上昇により、入院、外来ともに増収となった。一方、高額材料の使用増等により材料費は増加しており、職員の増員により給与費も増加しているため、費用負担が増してきている。  
今後も引き続き、安全で質の高い医療の提供に努めて、収益の確保につなげていくとともに、労働生産性の向上による時間外勤務の縮減や価格交渉による材料費の削減など費用の適正化を図り、単年度黒字化を達成、累積欠損金を減少させていく必要がある。

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

滋賀県 小児保健医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	訓	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,420,948	12,970	非該当	7：1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
100	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	100
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
100	-	100

**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

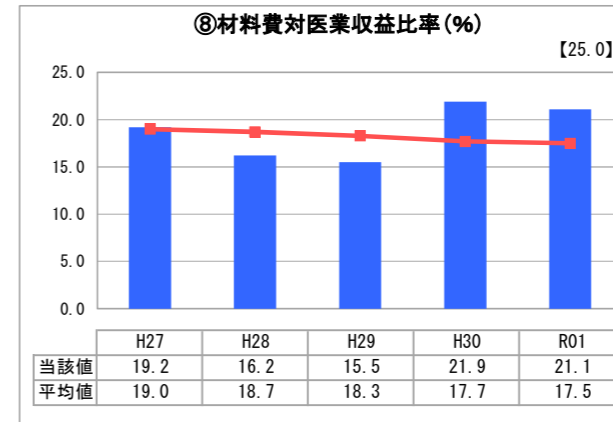
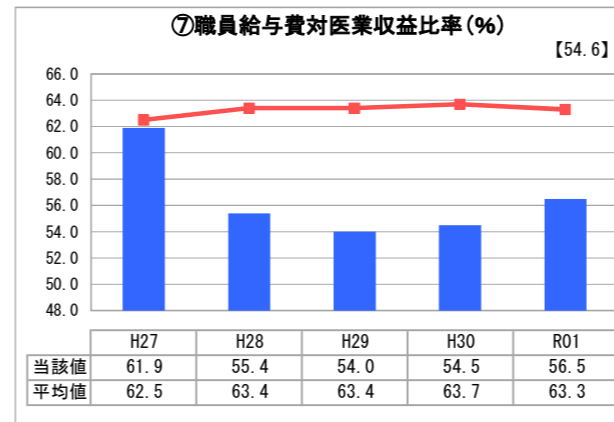
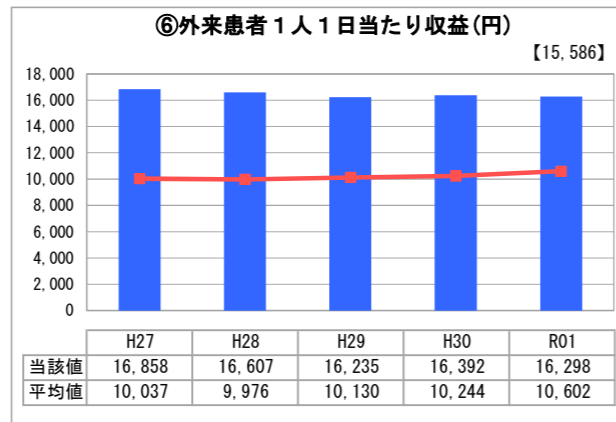
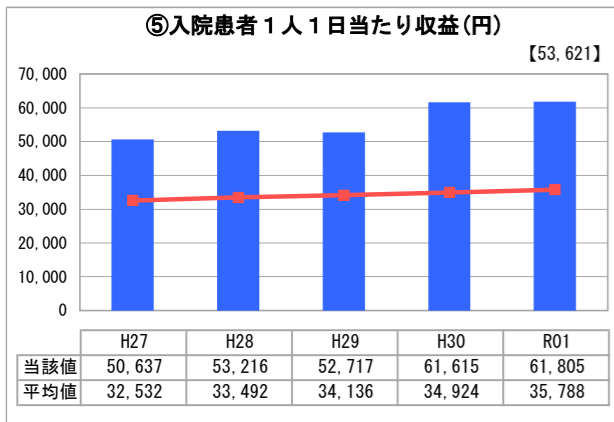
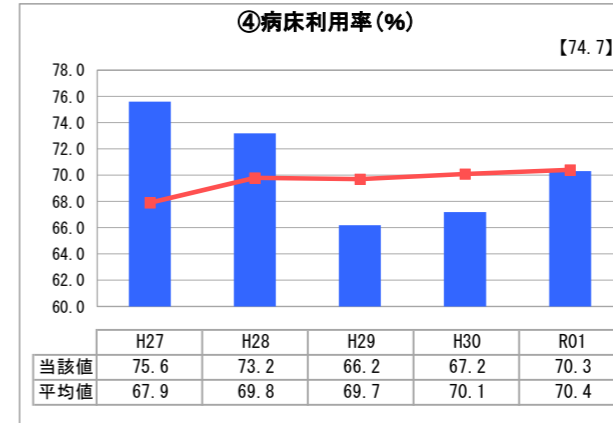
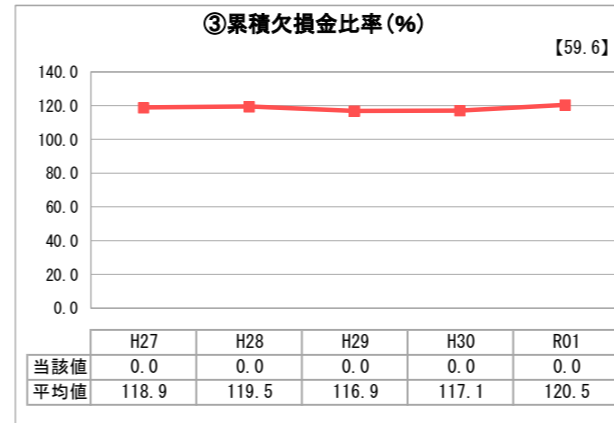
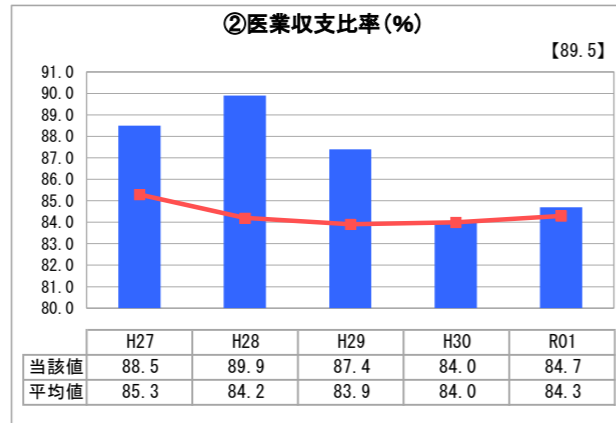
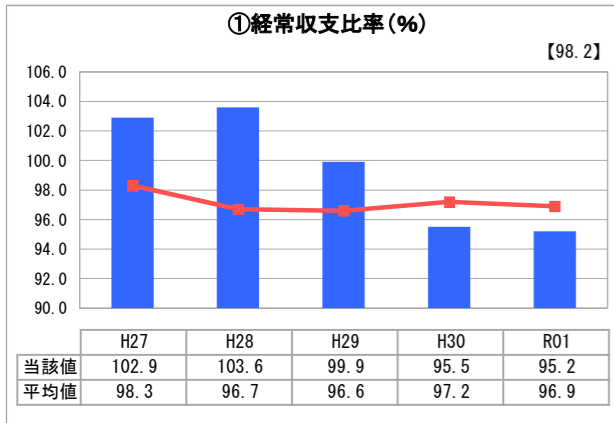
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

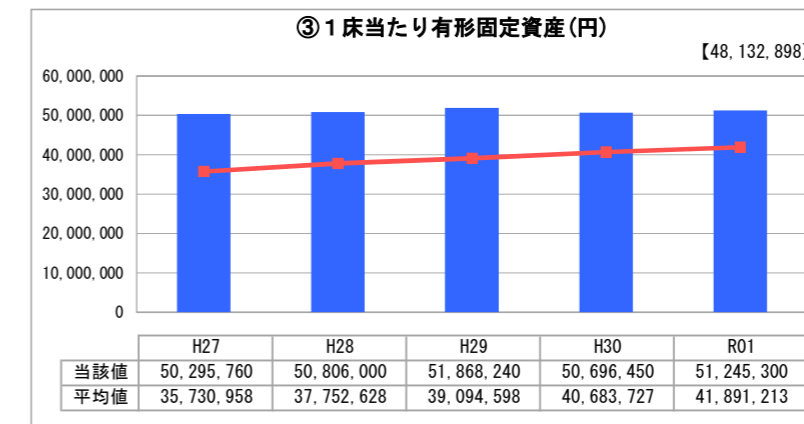
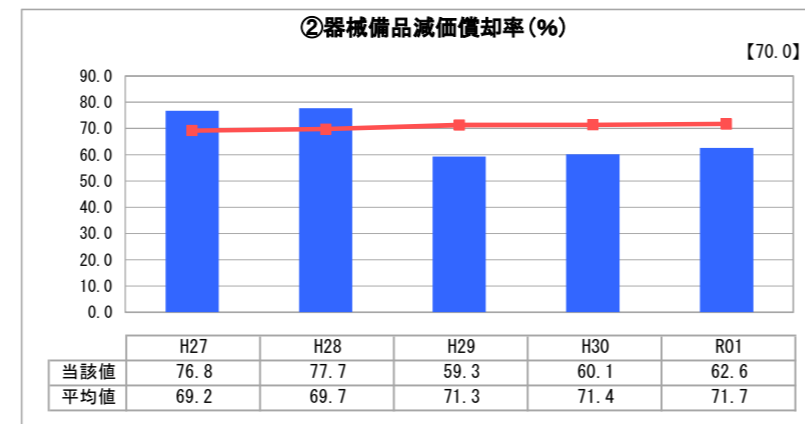
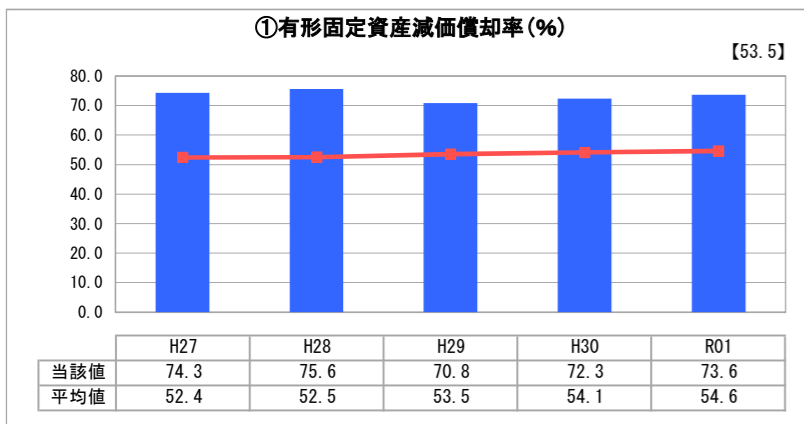
公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## I 地域において担っている役割

- ・一般病院では対応困難な障害児医療や難治・慢性疾患を中心に、地域医療機関と連携を図りながら高度専門的な包括医療を提供している。
- ・乳幼児健診事業、母子保健従事者への研修、生活集団教室や遺伝相談など母子保健の中核的支援拠点として小児保健サービスを提供している。
- ・児童福祉法に基づく医療型児童発達支援センターを併設し、総合的な療育とリハビリテーションを行うとともに、地域療育教室への職員派遣や療育研修会などのサービスを提供している。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ・病床利用率の改善により医業収支比率はわずかながら回復したものの消費税率の引き上げ・新元号対応などの経費増等により経常収支比率の改善にいたらなかった。
- ・経営改善に向け診療体制の充実を図り、機能訓練入院の促進などにより病床利用率の改善を図ることによって医業収益の増加を目指すとともに引き続き経費や材料費の抑制に努める。

### 2. 老朽化の状況について

- ・有形固定資産減価償却率が類似病院の平均値と比べ高く、また、開設から32年が経過し施設・設備の老朽化が進んでいることから県立総合病院との統合に向け移設建替を計画している。
- ・難治・慢性疾患患者を対象とした高度専門医療や一般病院では対応困難な障害児医療を提供するため、性能が高く機能が充実した医療機器を整備し、優れた療養環境を提供が必要があり、1床当たりの有形固定資産が同規模の一般病院の平均値より高くなっている。

### 全体総括

- ・経営状態は平成29年度まで比較的堅調に推移していたが、以降赤字となっている。
- ・コロナ感染症の影響により厳しい状況ではあるが、必要な医療提供を継続するために院内感染防止に万全を期しながら、アレルギー検査入院の拡充などにより入院収益の改善を図ることで持続可能な経営の実現に努めていく。
- ・また、昭和63年の開設以来、難治慢性疾患の子供を対象とした医療・保健・療育・福祉の中核機関の役割を担ってきたが、施設設備の老朽化などにより十分な対応が困難となってきた。
- ・このため、令和6年に県立総合病院との統合による新センター設置を準備してきたが、計画を1年を延期し、感染症対策の強化などを含めた再検討を行うこととしている。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

滋賀県 精神医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	精神科病院	精神病院	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	4	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,420,948	10,398	非該当	15:1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
123	-	123
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

## I 地域において担っている役割

県内の精神医療を担う中核施設として、地域医療機関や保健所などの関係機関との連携のもと、思春期精神障害、アルコール依存症等中毒性精神障害、精神科救急医療および身体疾患を伴う精神障害などを中心として、高度・特殊専門医療を担っている。

また医療観察法に基づく鑑定入院および指定通院・入院医療機関としての医療を提供している。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ・収益確保の取り組みを継続したことにより、令和元年度も黒字決算を達成することができた。黒字決算は平成28年度から4期連続となった。
- ・令和元年度は職員給与費や経費の増により医療費用が増加したことで経常収支比率は対前年で低下したものの100.0%を確保することができた。
- ・累積欠損金比率は類似病院平均値を下回っているが、引き続き医療収支比率を改善し、累積欠損金の解消に努める。

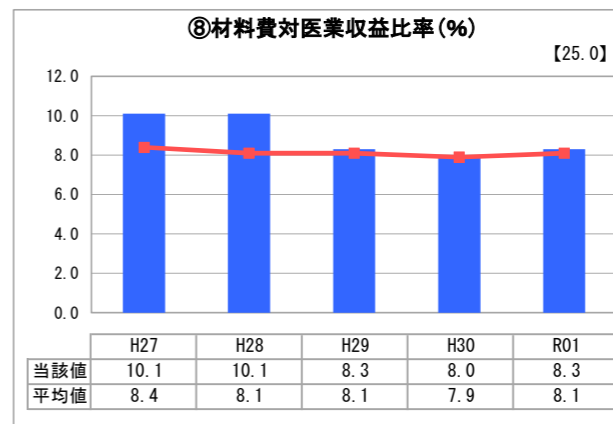
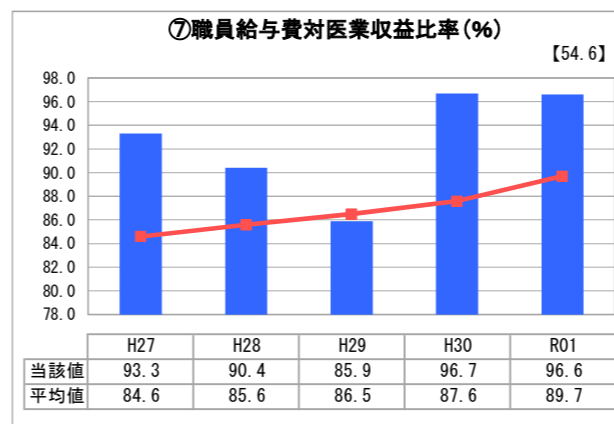
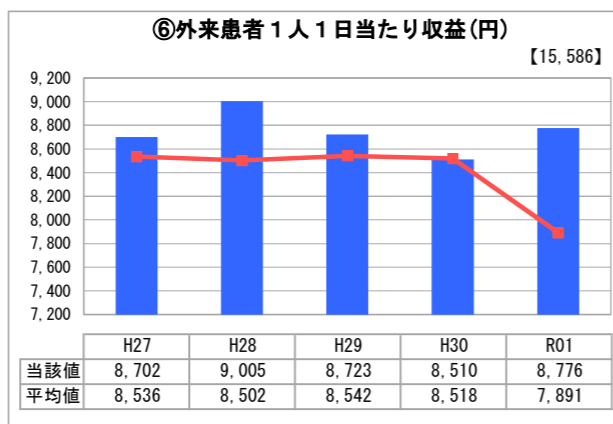
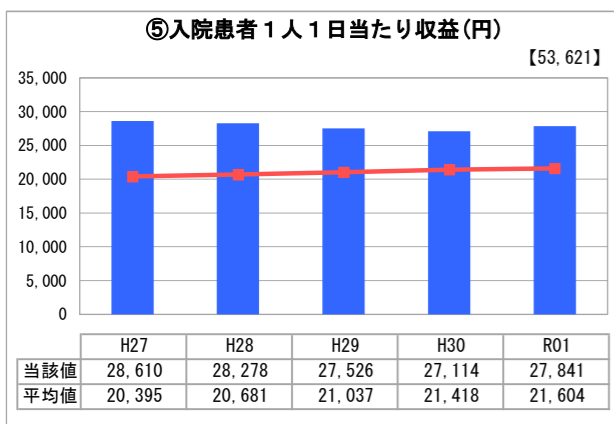
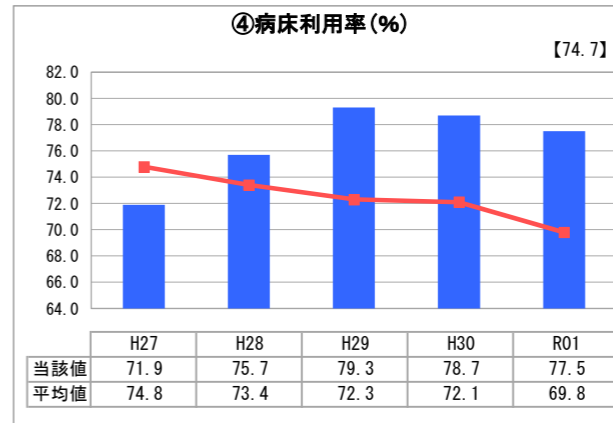
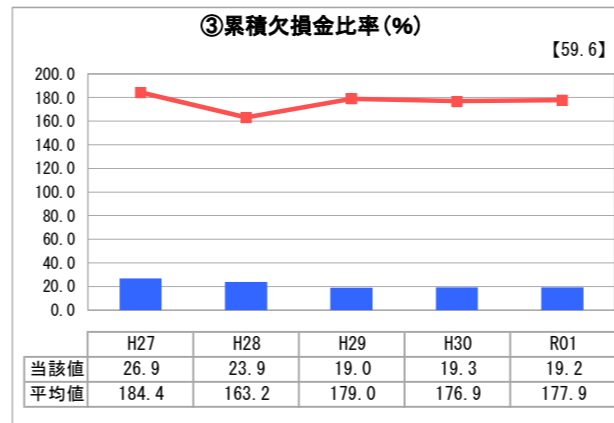
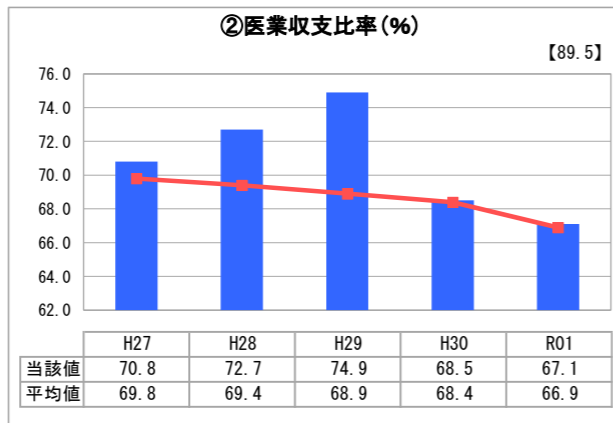
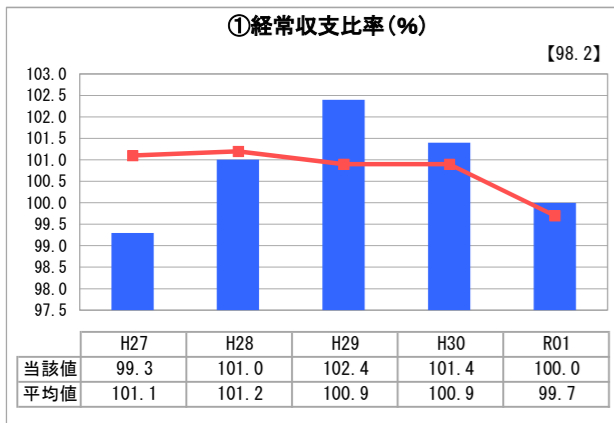
### 2. 老朽化の状況について

- ・平成25年度に新病棟を開設したことから一時的に有形固定資産減価償却率が低下したが、既存病棟は平成4年度に開設したものであり、類似病院平均値と比較してもやや老朽化が進んでいる。
- ・耐用年数を超過している備品が多く、平成26年度に導入した電子カルテの減価償却も進んでいることから、器械備品減価償却率は類似病院平均値と比較してもやや老朽化が進んでいる。
- ・県立病院として本来の病院以上の機能を付加して建設しているため、類似病院平均値よりも1床当たり有形固定資産が高くなっている。

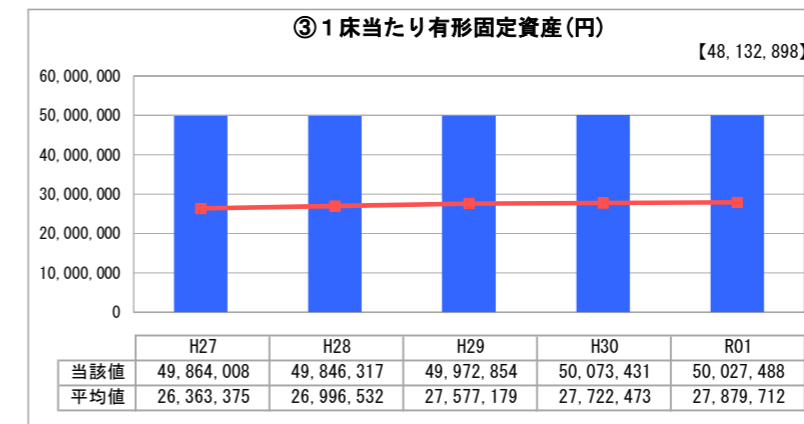
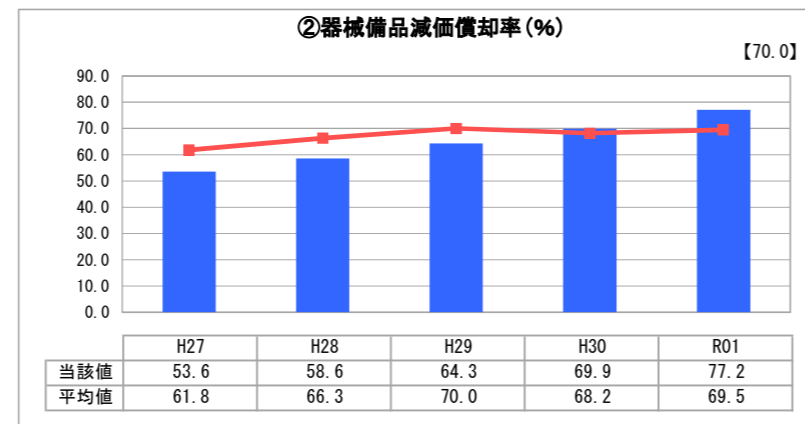
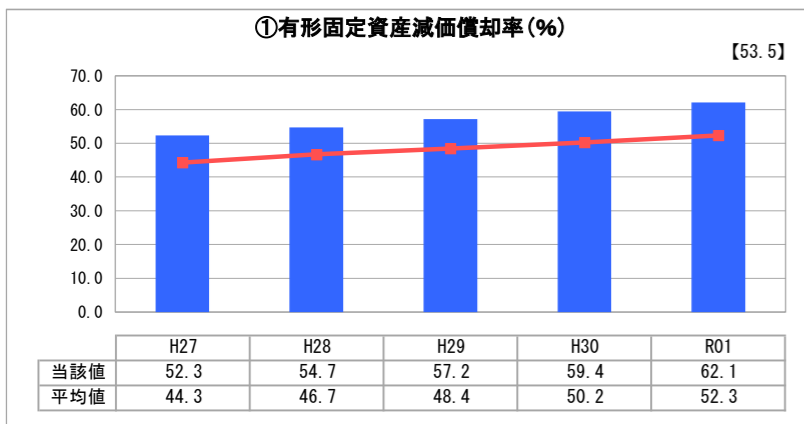
### 全体総括

・令和元年度は、職員給与費や経費の増により医療費用が増加したことで医療収支比率が対前年比で減少したが、類似病院平均値並を維持することができた。今後は診療収益確保・経費節減の取り組みなどにより健全な経営に努め、県立病院としての役割を果たしていく。

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。